

## 4. 調査、予測及び評価の結果

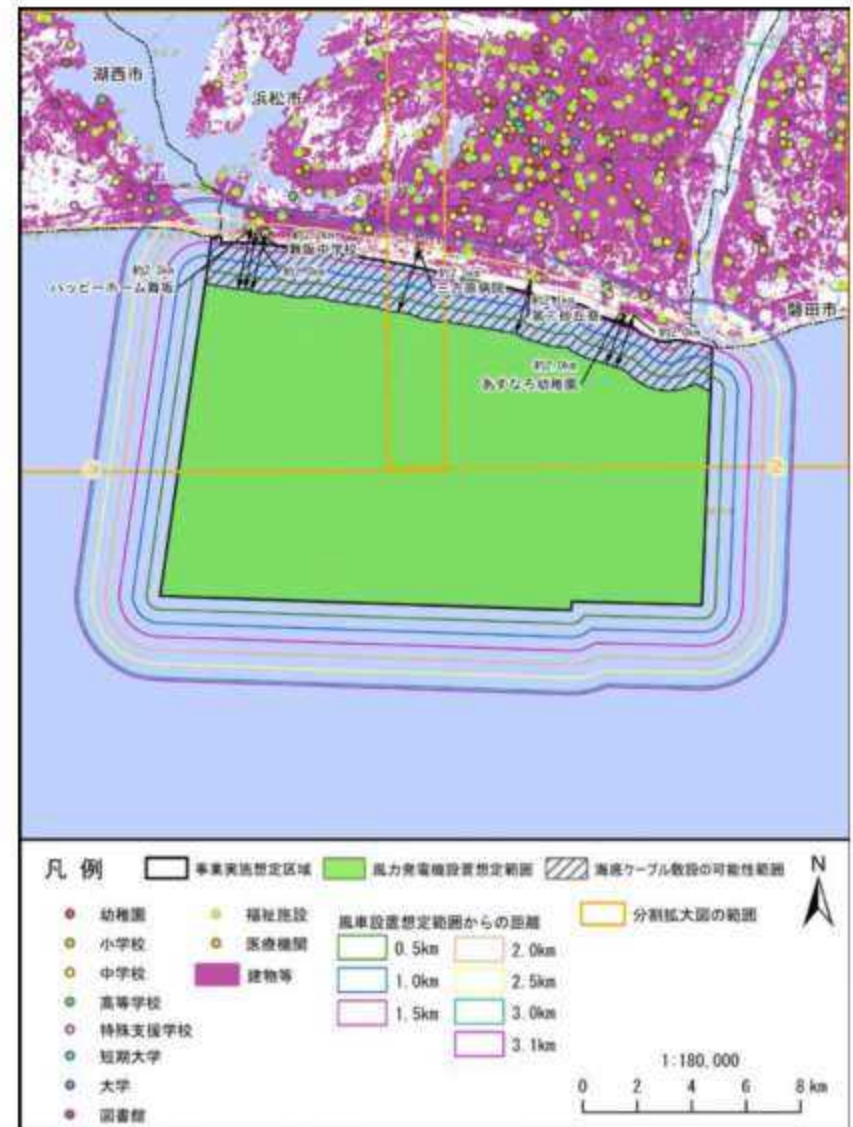
### ②-1 風車の影

#### ◆調査結果

- ・風力発電機による風車の影の影響範囲を十分に含む範囲として、事業実施想定区域から3.1kmの範囲を調査地域とした。
- ・最も近い住宅等の建物は約2.0kmの地点に存在する。事業実施想定区域に最も近い配慮が特に必要な施設は、以下のとおりである。

NO.	区分	施設名	事業実施想定区域からの距離
①	学校	あすなる幼稚園	約2.0km
②	福祉施設	第二砂丘園	約2.1km
③	病院	三方原病院	約2.5km

注：Renewable Energy: A Companion Guide to PPS22」(Office of Deputy Prime Minister, 2004)によれば、風車の影による影響はローター直径の10倍(10D)の範囲内で発生するとされていることから、調査範囲については、風力発電機設置範囲から3.1kmの範囲で整理した。



## 4. 調査、予測及び評価の結果

### ②-2 風車の影

#### ◆予測・評価

風力発電機設置範囲から3.1kmの範囲における配慮が特に必要な施設等は27施設、住居の可能性のある建物は20,910戸が存在し、このうち最短距離の施設等は約2.0km、住居の可能性のある建物は約2.0kmである。このため、施設の稼働により発生する風車の影による重大な影響を受けると評価する。

なお、上記の状況を踏まえ、今後の環境影響評価手続き及び詳細設計において、以下に示す事項に留意する。

#### [留意事項]

- 配慮が特に必要な施設等からの距離に留意して風力発電機の配置等を検討する。
- 風車の影の影響範囲及び時間を適切に把握し、必要に応じて環境保全措置を検討する。

配慮が特に必要な施設等の分布

風力発電機設置範囲からの距離(km)	住居の可能性のある建物(戸)	学校(施設)	医療機関(施設)	福祉施設(施設)
0~2.0	0	0	0	0
2.0~2.5	6,961	7	1	4
2.5~3.0	11,578	6	0	7
3.0~3.1	2,371	1	0	1
合計	20,910	14	1	12

## 4. 調査、予測及び評価の結果

### ③-1 動物（陸域・海域）

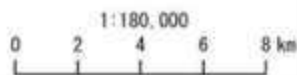
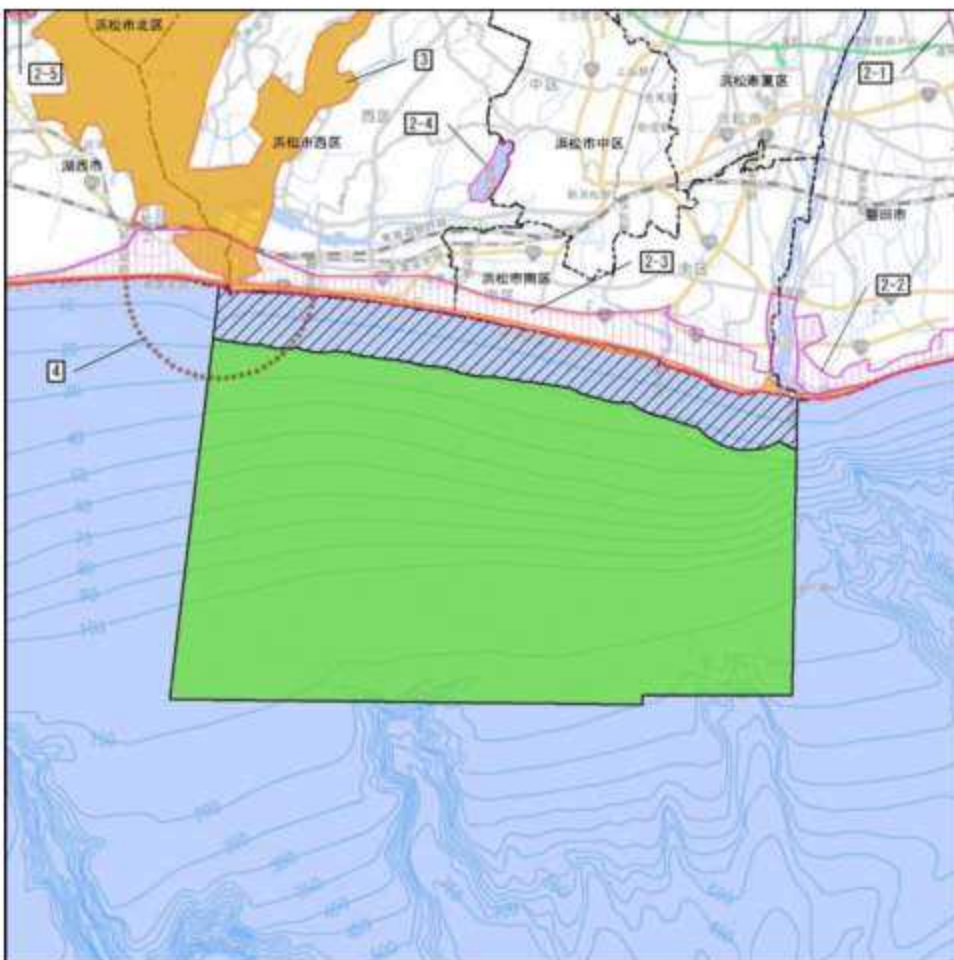
#### ◆調査結果

#### ①陸域に生息する種

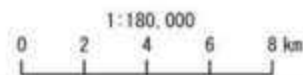
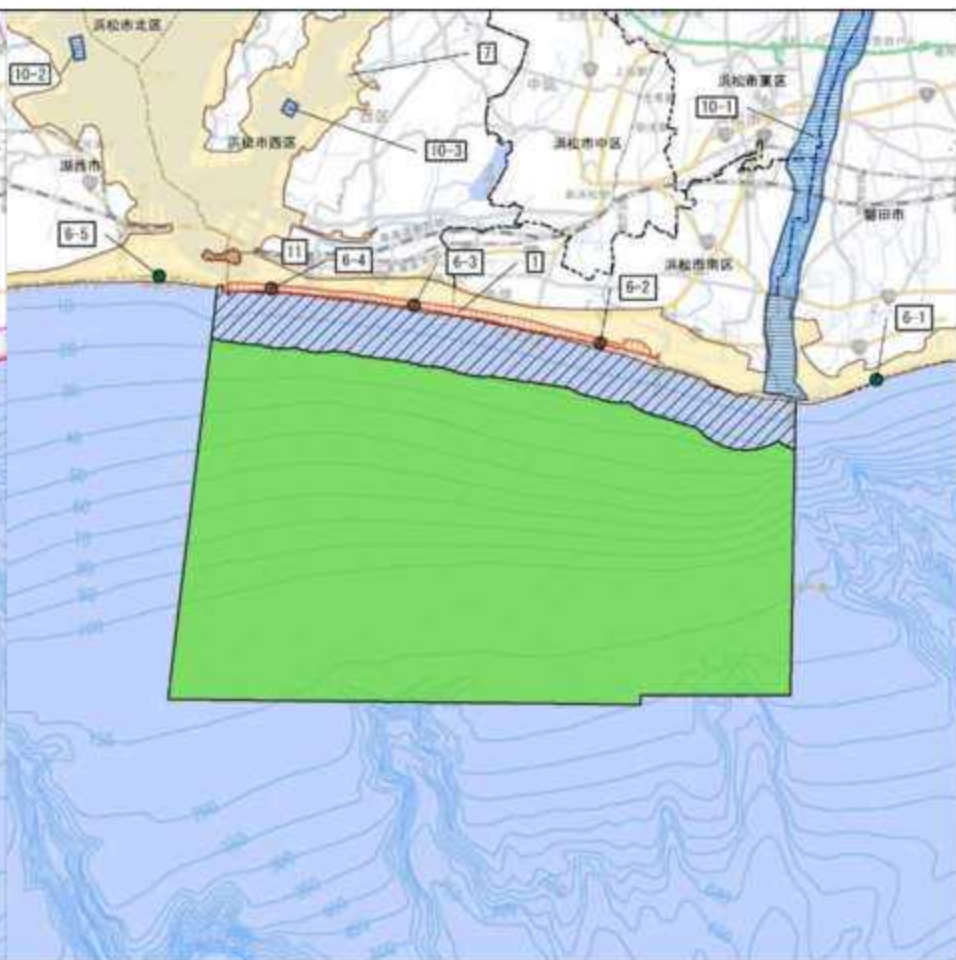
- ・事業実施想定区域の周囲では、哺乳類（コウモリ類）4種、重要な鳥類116種が重要な種として確認された。
- ・陸域における動物の注目すべき生息地は、事業実施想定区域の周囲には、浜松市指定天然記念物、県指定鳥獣保護区、重要野鳥生息地（IBA）、海鳥の重要生息地（マリ-IBA）、海鳥の繁殖地、ウミガメの産卵地、生物多様性保全の鍵になる重要な地域（KBA）、生物多様性の観点から重要度の高い湿地、生物多様性保全上重要な里地里山、保護水面区域及び干潟が存在し、事業実施想定区域内に海鳥の重要生息地（マリ-IBA）の一部が含まれる。

#### ②海域に生息する種

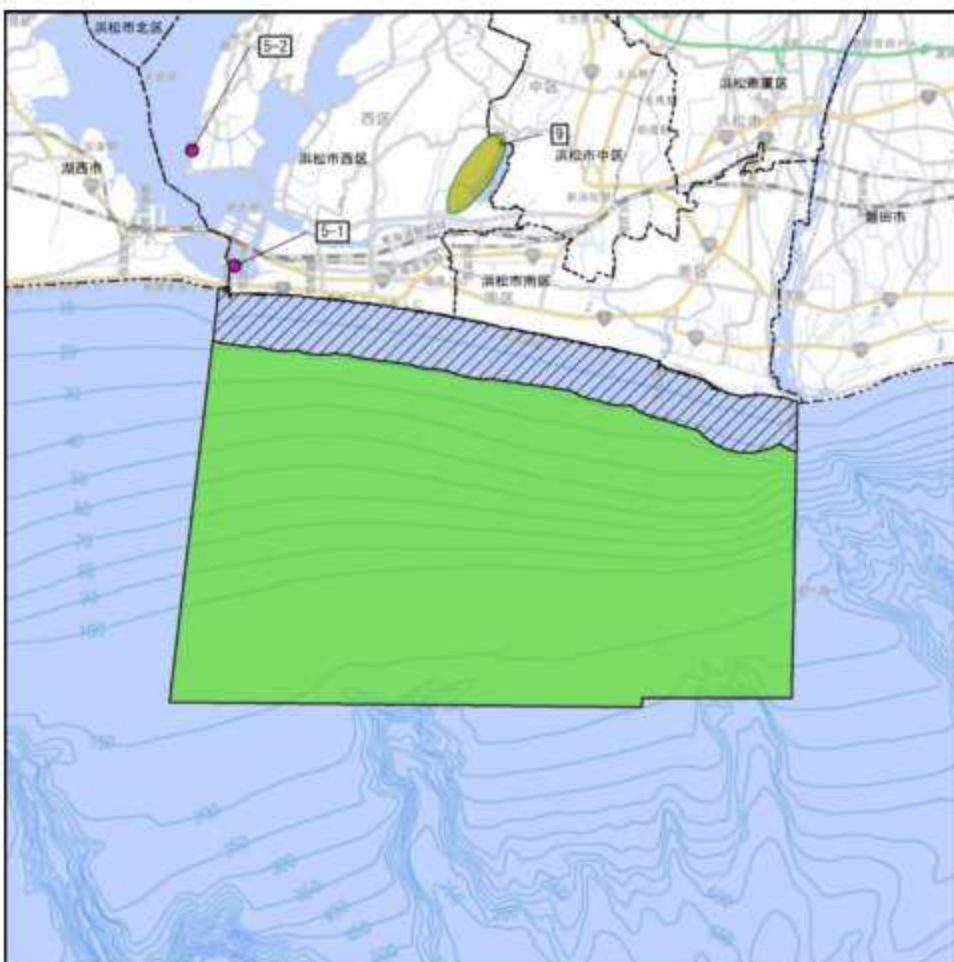
- ・事業実施想定区域及びその周囲では、海棲哺乳類5種、海棲爬虫類1種、海産魚類39種、その他無脊椎動物48種が重要な種として確認された。
- ・「生物多様性の観点から重要度の高い海域」及び「海生生物の重要な生息環境」が、事業実施想定区域内に一部が含まれる。



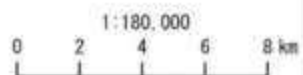
注目すべき生息地（陸域）



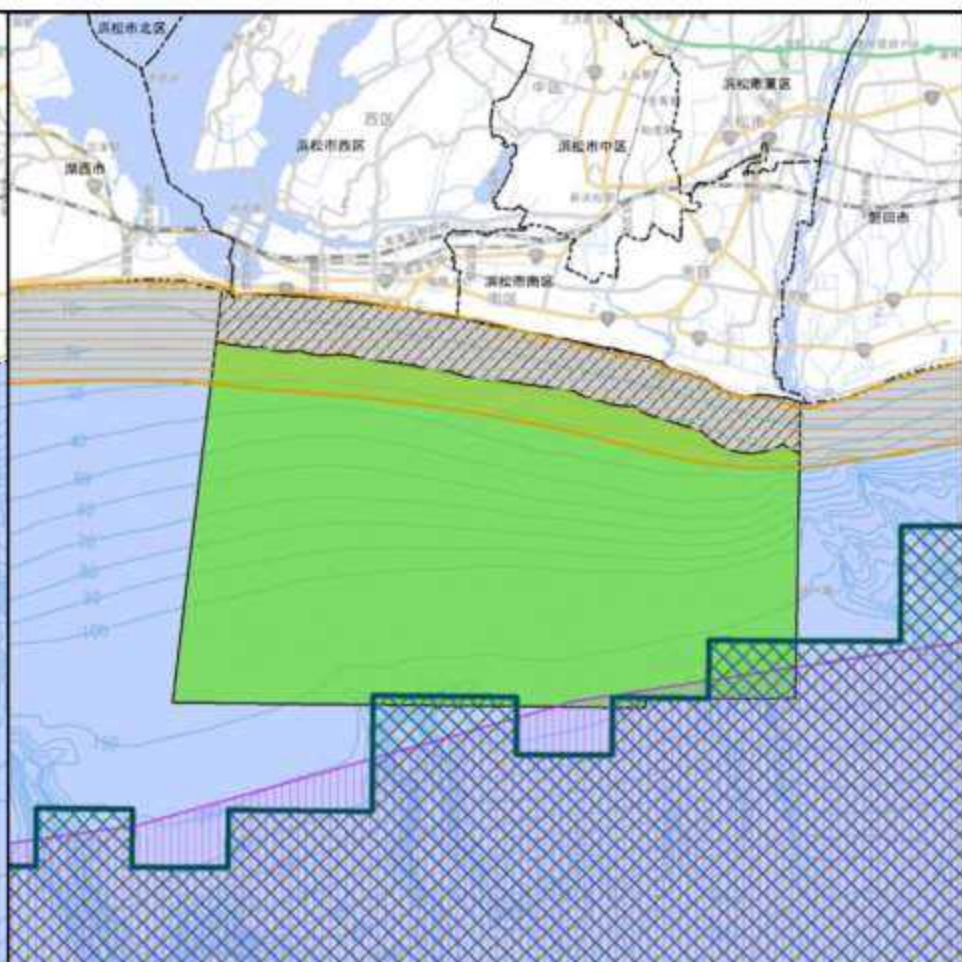
注目すべき生息地（陸域）



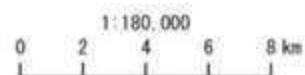
- 凡例
- 事業実施想定区域
  - 風力発電機設置想定範囲
  - 海底ケーブル敷設の可能性範囲
  - 重要崖地里山
  - 海鳥コロニー
  - 等深線



注目すべき生息地（陸域）



- 凡例
- 事業実施想定区域
  - 風力発電機設置想定範囲
  - 海底ケーブル敷設の可能性範囲
  - 生物多様性の観点から重要度の高い海域（沿岸域）
  - 生物多様性の観点から重要度の高い海域（沖合表層域）
  - 生物多様性の観点から重要度の高い海域（沖合海底域）
  - 海生生物の重要な生息環境
  - 等深線



注目すべき生息地（海域）